

名 誉 会 員 追 悼



故 名誉会員 豊田 茂 氏

社団法人日本鉄鋼協会名誉会員、元新日本製鐵(株)副社長 豊田 茂氏は、平成21年11月26日、ご逝去されました。享年94歳。ご逝去の報に接し謹んで哀悼の辞を申し上げます。

氏は、昭和15年3月九州帝国大学工学部機械工学科卒業後、日本製鐵(株)輪西製鐵所(現室蘭製鐵所)に入社、設備部門に配属され、約4年間の軍務の後、室蘭製鐵所に復職し、保全課長を経て、昭和31年臨時建設部企画課長、昭和36年製鋼部長、昭和39年本社生産管理部長、42年取締役、45年新日本製鐵(株)常務取締役、48年専務取締役、52年取締役副社長 君津製鐵所長、54年技術担当取締役副社長、昭和58年から62年まで同社常任顧問・顧問を歴任し、製鉄技術の進歩発展に優れた手腕を発揮され、卓越した業績を挙げられると共に、豊かな経験と洞察力によって幾多の後輩の指導・育成に尽力されました。

氏は、戦後室蘭製鐵所の再建に修理部門を皮切りに新技術開発、新設備建設を通して多大なる貢献をされました。即ち、長らく寒冷地における設備保全に苦心され、昭和29年には近代的保全思想に基づくわが国初の保全課を上げられました。またその後、日本経済の復興と共に需要が急増しつつあった昭和30年代に、室蘭製鐵所合理化計画推進の責任者として、国産ホットストリップミル、純国産連続鋳造機、平炉建屋内への転炉のリプレースなど新規考案を採用した工場を建設し、その操業を担当されました。さらに転炉ーRH真空処理法によるステンレス鋼吹錬および普通鋼大量処理技術の開発など、鉄鋼技術の進歩に多大の貢献をされ今日の鉄鋼業発展の基礎を築かれました。

昭和44年、大分製鐵所建設の総責任者として、それまで室蘭製鐵所で開発実機化した技術を基盤として、世界初の全連続鋳造方式の製鉄所の実現、4,000m³級と言う世界でも類を見ない大型高炉、さらに超高压高炉とステープ冷却方式の採用、最小コストを追求した輸送構造の実現など常にパイオニア精神に徹し、鉄鋼技術の未来をかけた画期的な製鉄所の実現に中心的役割を果たされました。

氏は、昭和40年代後半、油井管・ラインパイプの需要増大、品質の高級化などに対処すべく、CC角断面素材を直接造管する画期的なプレスロール穿孔プロセス法によるシームレスパイプミルの研究開発と商業化に当たられ、省資源、省エネルギー面で顕著な成果を挙げられました。

氏は、その後も、オイルショック以降の低成長時代における省エネルギーと言う業界不変の課題について、対策を積極的に推進し、昭和52年には、君津製鐵所長として、高炉燃料比の大幅切下げ、CC適用鋼種拡大など数々の成果を挙げられました。

なお、氏は長年にわたって本会において共同研究会鋼板部会・設備技術部会の分科会主査、標準化委員会ISO鉄鋼部会長、国際鉄鋼技術委員会委員長、本会評議員・理事・副会長などの要職を歴任し、我が国鉄鋼業の進歩発展に多大の貢献をされました。これらの数々の業績により渡辺義介記念賞、服部賞、渡辺義介賞、製鉄功労賞を受賞され名誉会員に推挙されました。さらに、(社)日本高圧力技術協会副会長、(社)日本溶接協会副会長、日本防災システム協会会長、鋼管杭協会会長などの要職も歴任し、科学・技術の発展、学術の振興に多大の貢献をなされました。これらの業績により、本会以外からも勲二等瑞宝章、藍綬褒章、大河内記念賞、谷川熱技術賞を受賞されておられます。

氏が鉄鋼技術と本会の発展に尽くされた多大なご業績を偲び、会員一同、心からの哀悼の意を捧げ、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

平成22年3月

日本鉄鋼協会 会長 友野 宏